

【次第】

- 1.校長挨拶
 - 2.校長より
 - 3.各分掌より(教務部・生徒支援部・進路支援部・人権教育推進委員会)
 - 4.協議・意見交換
 - 5.会長より
 - 6.事務局より
-

1.校長挨拶

昨年度の3回めは書面開催でしたので、久しぶりの開催です。

委員の皆様にご改めしてお礼申し上げます。本年もよろしくお願いいたします。

2 校長より

ア) 学校経営計画 学校評価

めざす学校像

- ・目標3点 ①生徒の自己実現 ②すべての生徒が安全安心に過ごせる ③地域連携

人権教育をベースとしたキャリア教育

きめ細やかな学習指導

生徒保護者に野崎高校に入ってよかったといってもらえる学校をめざす

- ・変更点

生徒の安全安心につながる生徒支援を教職員が一丸となって行うため、生徒指導的な考えから生徒支援的な考えに変更した。

イ) 中間的目標

- ①自己実現を支援するために 学力の伸長 基本的な基礎学力を作る工夫 ②進路実現をはかる
- ③安全安心 コロナやヤングケアラーに関する対応 ④人権尊重の精神 生徒の自立
- ⑤地域連携がコロナ対応で難しい 今年度できる範囲でコロナ前の状況に戻していく

ウ) 今年度重点目標

- ①再編整備計画の進行 昨年度に茨田高校との機能統合が発表 茨田高校は令和6年度末で閉校となるが、野崎高校は校名や校地は変わらない 定員割れが3年連続しているが、広報活動も工夫しながら続ける
- ②通級指導の実施校に昨年度末に決定 本年度はさらに困り感を抱えている生徒に対して、新たなシステムで支援を進めていく 2学期から進めていく予定
- ③様々な課題がある生徒の早期発見・早期解決 外部人材の有効活用 スクールソーシャルワーカーは来校回数を倍増し、週1回来校 今年度、新たにキャリアコーディネーターを進路支援部に配置、3年生を中心に進路活動を支援 居場所カフェは図書室で継続実施。

3.各分掌より

ア)教務管理部（教務）より

令和5年度使用教科書選定一覧 → ご承認いただく。

イ)生徒支援部より

- ①規範意識の向上 生徒とは信頼関係を築くことが大事 授業でのやり取り、授業外での声掛けを大事にし、不信感を払拭し、教員との約束を生徒に守らせる
- ②学校生活を大切にする心の育成 遅刻が多い コロナで行事が少なくなったせいではないかと思っている 学校が楽しい、学校に行きたいという気持ちを育てたい
- ③生徒への協力呼びかけ 生徒指導案件への迅速な対応 校門前道路の横断を生徒に協力を呼びかけ、信号を使って横断するようになった 学校と生徒が協力していくやり方が今の生徒にあっていく
- ④生徒会活動 体育大会、文化祭ともにコロナ前の内容に戻していく

ウ)進路支援部より

- ①昨年度の状況 例年通り進学と就職が半々 未定その他には、自己開拓縁故が入るので、実際に就職した生徒はもう少し多い
- ②今年度の状況 求人数が増加している 講演会や進路行事を通して生徒の進路意識を高める 3年生の進路希望も就職進学は半々 就職活動1次に応募は65名くらい 他校に比べて、進路保証がこの本校にとっては大切

エ)教務管理部（総務）より

- ①校外での中学生向け説明会への積極的な参加 中学生に直接説明することが大切 昨年度、コロナで大きな説明会が中止となり、志願者の減少につながっているかもしれない 今年度は説明会が開催されるので積極的に参加していく チャレンジ野崎や学校説明会に参加する中学生に参加する意義を確認していく
- ②生徒による広報活動 中学生にとっても先輩たちの顔が見えるのはいいこと 本校の生徒の自信にもつながる 他人を思いやる心などにつながる
- ③ITCを利用した情報発信 ホームページから申し込みが多い 今年大きくホームページを改変し、更新しやすく、即時性を向上させる
- ④GIGA スクール 授業ではプロジェクタなどの生徒にとってわかりやすいICT機器を教員が使用 1人1台端末も使えるところで使用していく
- ⑤PTA活動 昨年度ほとんど中止になったが、今年度は活動再開予定。

オ)人権教育推進委員会より

当事者とのプラスの出会いがテーマ 部落問題やジェンダー、貧困、障がい者問題の当事者の方が来校して講演 今年度は、アパルトヘイトについて染谷西郷さんによるライブと講話を実施済
学校教育自己診断での人権についての高評価は8割を超えた

4.協議・意見交換

ア)委員より

校長が生徒指導から生徒支援に変わったことが大事だと言っていた。生徒支援部の話にもあった規律指導ではなく、生徒と一緒に進めることが、いい成果を上げていることにつながる。

学校生活を大切にする心の育成が大事。3年間の中で順を追って進めることが重要。遅刻してきた生徒に「遅れてでもよくきた」と言ってほしい。自己責任で解決できない生徒もいるので、そのあたりを共通理解しているか、理解したうえで厳しい指導をするのと義務感でするのは違うので、どういう思いを持っているか聞かせてほしい。

→以前より生徒層がだいぶ変わっている。生徒指導部から生徒支援部になったことも含め、教員の気持ちの切り替えが必要。

ペナルティを与えすぎると、遅刻は減るが、欠席が増える。どうやったら出席するか、現在検討している。遅刻が多かった生徒に「朝から来たらこれだけ授業わかるやん」と生徒が言うようになるのが、理想である。

生徒に対し遅刻に関するアンケートを取り、遅刻を寄り添って減らしていくにはどうしたらいいか考えていきたい。（事務局）

イ) 委員より

昨年度はコロナで、里山ボランティア部の参加がほぼなかった。今年の6月に野崎高校の卒業生である大学3年生の子が参加してくれた。昨日、生徒と教員の参加があった。汗びっしょりであったが頑張ってくれた。意欲的に前向きに活動してくれていると感じた。

意欲的な生徒もいいが、全く興味がない生徒にも参加してもらって、自然の中でリスクを体験してほしい。先生から言うのがいいか、生徒から言うのがいいかわからないが、「行ってみようか」という生徒が増えてほしい。過去には文化祭で竹を使った取り組みもあったので、生徒が竹をもってなにかをしたいか考えてほしい。森づくりクラブには後期高齢者が多いので異年齢の中でふれあいをしてほしいと考えている。

ウ) 委員より

同和教育は地域教育では厳しい、部落解放とか法律はできているが、地域では難しいことを学校に担ってもらっていて、ありがたい。生徒だけではなく先生方も学習しているので、その先生方が異動先でまた活躍している。野崎から異動した先生のつながりで講演依頼もあり、魁（太鼓集団）にも野崎の生徒卒業生が多いので、その活躍の場が広がってありがたい。

小中学校で不登校など経験し、「高校で通用するわけない」という生徒が、野崎高校で変わるというところが生徒たちにとってありがたい話。

野球部の生徒が、地域の野球教室に来てくれる。硬式から軟式やソフトボールも面倒見ていく。地域に部活が移行することを考えると、高校が軟式になれば、中学生も面倒みてくれないかな？野球つながりで草野球チームなども面白い。

化粧がじょうずな生徒が多いことを活かしていけばいい。コンテストなどをするとか、美容の部活とか、そういうものを活かしていけばいいのに。

生徒の意見をきいて支援することは大事。アンケートなど活かしてもらえれば。

エ) 委員より

遅刻の件に関して。学校側で指導して改善できる部分もあると思うが、家庭のほうでも原因はある。ちゃんと遅刻せずに毎日くる生徒は、遅れてはいけないということを理解して行動している。友達と一緒に遅刻していいやという生徒がけっこういる。そうではないことを生徒に理解させられればいいのにと、難しいけど思う。自分が高校生の時、学校が面白くないから遅刻欠席が増える人もいたの、いやな気持ちになることは減らさないとはいけませんが、ルールを高校生活の間に身につけていかないと困るのは自分たちだと理解できるように生徒たちに教えてもらえたらありがたい。

家庭でも生徒は大人をみている。大人不信、教師不信を家庭でも見ている。子どもが影響を受けている。家庭でそういうことを生徒に感じさせないように気を付けたい。

学校は楽しいと感じてもらい、入ってきてもらうためにSNSやホームページを活用するのはいいと思う。会社ではホームページを作り替えて、インスタグラムなどを活用し、雰囲気や仕事の動画をあげることが、自分たちでできなかった。SNS専門業者にベースを作ってもらい、求人をかけたら今まで応募が0人だったものが5人来た。学校もそのように、ホームページなど対応していけばいいか

なと思う。

5.会長より

委員の話をまとめると、遅刻が多いことはダメなことはわかっているが、小中学校時代に不登校であった生徒が学校きたなら、「よう学校来たな」と、ほめる、複雑な家庭のヤングケアラーの生徒の遅刻と、オール（夜通し）で遊んで遅刻してきた生徒は遅刻であっても中身が違う。ヤングケアラーの生徒はほめてやる必要があるが遊んでいる生徒は指導する必要がある。しかし、生徒は「なんであいつは怒らないんや？」というから難しい。

人権教育においては、当時者が高校時代などの苦勞したことプラス、その後努力したという話に、進路指導をからめていけば面白いと思う。

6.事務局より

次回は 12 月上旬を予定。
